



2020年10月22日(木)、国連創立75周年、国連グローバル・コンパクト創立20周年を記念し、グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン(GCNJ)年次シンポジウム「Decade of Action～ビジネス革新を一気に加速し、企業・社会を変革する～」が開催されました。本来、3月に実施される予定だった年次シンポジウムは、新型コロナウイルスの影響により10月へ延期、初めてのオンライン開催となりました。

企業と共により良き世界へ

開会にあたり、GCNJ 大場事務局長からは「2020年は疑いもなく、人類の歴史上の節目＝転換点となる年である。国連は創立75周年、国連グローバル・コンパクト(UN Global Compact, UNGC)は設立20周年の節目を迎えている」との言葉から始まり、オープニングにはUNGCリーダーズサミットで公開された20周年記念の動画を放映、国連グローバル・コンパクトCEO兼事務局長サンダ・オジャンボ(Sanda Ojiambo)氏からのメッセージでは「今年はSDGs達成のための行動の10年のはじまりです。これまでのようにビジネスに取り組む時間はもう残っていません。公平・公正で誰一人取り残さない世界を作り出すにはすべてのステークホルダーがただちに野心的な行動を起こす必要があります。世界のビジネス界を結集し、より良き世界を築くために取り組んできたUNGCと共に私たちが望む世界を築いていきましょう」との呼びかけがありました。

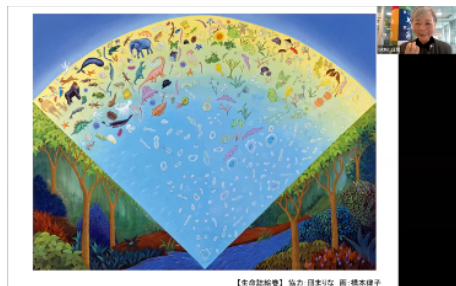


国連グローバル・コンパクトCEO兼事務局長
サンダ・オジャンボ氏

第一部：基調講演

第一部では、基調講演「人間は生き物という基本—コロナパンデミックを踏まえて」と題し、JT 生命誌研究館 名誉館長、生命誌研究者・中村 桂子氏にご登壇いただきました。

はじめに、コロナ影響の始まる少し前から皆が感じていることは転換期であるということ、自分の中から沸き起こる何かを問う時に考えるのは「人間は生き物であり、自然の一部である」ということ、**すべての生き物は同じ仲間として生きていて、人間はその中に生きていることを考えていただきたい**、人間は上からでなく中から目線で考えていただきたい、との話がありました。



JT 生命誌研究館 名誉館長、生命誌研究者・中村桂子氏による基調講演

つぎに、人間と自然との関係性に触れ、「人間は人工の成長だけを考えていたが故に自然破壊が起きている。人間自身が内なる自然である。自然破壊は人間の身体、心(時間・関係)も壊している。」との話がありました。また、「進歩と進化」を考えると、人間は一つの価値観で考え、進歩してきた。進化は様々な形でプロセスを大切に、多様性を大事にしてきた。38億年の歴史の中から学び新しい社会をつくりたい、との話がありました。

そして、「人間復興」に触れ、わかる人にだけわかるのではなく、誰もがわかる世界をつくるのが第2のルネッサンス。「なぜと問い自分で考える」「善・悪を自らの中に引き受ける」人が精神的に強い人間であるとの紹介

あり、今の世界において大切なのは「生命論的世界観」であるとの話がありました。

最後に、平安時代の物語「虫愛ずる姫」を紹介され、日本には自然をよく観て、知を探し、新しいことを考える文化があり、いまこそ世界に発信することが大切だとの話がありました。



代表質問コーナーでは、GCNJ 後藤理事から「西洋科学を専攻されながら、心をもちつけられた真意はなにか」との質問に「学ぶときに、先生・人に巡り合えて幸せだった。人柄も学ぶ。気持ちを伝えあいながら考えてきたことが幸せ」「女性は仕事と日常を重ね合わせて考えることができた。科学者・哲学者の大森荘蔵氏の“重ね描き”という考え方、密画と略画を重ねて考えることを教えられた。ビジネスと日常を重ねながら考えてみてほしい。ビジネスマンへのアドバイスとして、普段のことを大事に考える。“重ね描き”を大事にしてほしい。コロナ禍だからこそ、考えるチャンスがある」との回答がありました。

次に、「日本から世界へ発信するにはどうしたらいいか？」との質問に、「西洋の基本にも自然とのかかわり、日常とのかかわりは生命誌絵巻に共通するものがある。人間の起源は共通である。その共通性を生かしていくことができる」と回答いただきました。

最後に、若者に向けてのメッセージを求められ、「世の中は予測不能だけでも、今の社会は競争をしすぎていると感じる。自分の大事な

もの、やりたいことをやると今必要なものが見つかると思うのでやっていただきたい。望みとしては戦争がない状況をつくってほしい。」カント「永遠平和のために」にも触れ、「平和は夢のようなものではなく、人間に与えられた使命である、戦争をしている暇はない。自分たちで実現できる世界であると信じてほしい。」との言葉で締めくくられました。

第二部：パネルディスカッション

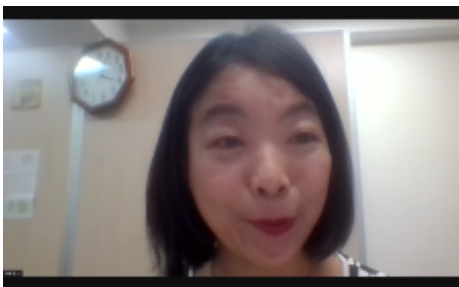
第2部は「いのち・人から考える企業経営」と題し、1部の基調講演を受けて、人間としてどう行動していくかを様々な専門的な立場から議論を深めていきました。

宇沢国際学館取締役 医師 占部まり氏、認定NPO法人 ヒューマンライツ・ナウ 事務局長 伊藤和子氏、株式会社セブン&アイ・ホールディングス 取締役 常務執行役員 伊藤順朗氏、アマタホールディングス株式会社 専務取締役 最高執行責任者、GCNJ理事 佐藤博之氏にご登壇いただき、モデレーターはGCNJ 河口理事が務めました。



宇沢国際学館取締役 医師 占部まり氏

占部氏からはご尊父 宇沢弘文先生の社会的共通資本「大切なことはお金にかえられない、経済は人間の心があって初めて動く」。真の意味での豊かな社会の実現、SDGsと社会的共通資本のつながりについて。また、**人間の心や自然環境を大事にするために社会的共通資本がある**、との話をいただきました。



認定NPO法人 ヒューマンライツ・ナウ 事務局長 伊藤和子氏

伊藤和子氏からは、コロナ危機において世界で起きている人権侵害、人権問題について報告がありました。また、コロナ危機は地

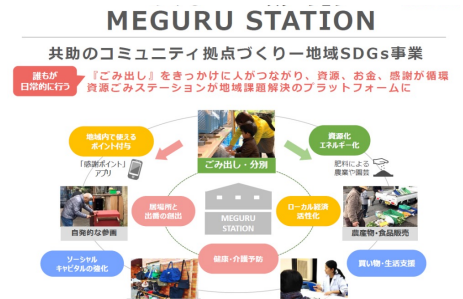
球の有限さ、社会や人の脆弱性を改めて気づかせてくれた。社会の回復のチャンスとして、長期的な社会の在り方を問い直すときである、と気候変動やビジネスと人権に関する国別行動計画（NAP）採択にも触れ、企業が人と地球を大事にする企業へ変革してほしいとのメッセージがありました。

伊藤順朗氏からは、拠点47都道府県22,500店舗、2500万人/日の来店客を迎え、54万人の従業員（加盟店+連結従業員）と共に果たされる社会資本、インフラとしての経営の姿と使命感、SDGsへの取組みやチャレンジを紹介いただきました。



株式会社セブン&アイ・ホールディングス 資料抜粋

佐藤氏からはアマタホールディングスのミッション「人と自然の豊かな関係性が広がる持続可能な社会」を実現するための、資源ごみの持込・回収を軸にした共助のコミュニティ拠点「MEGURU STATION」のご紹介があり、誰もが「安心」と「生きがい」を実感できることこそ人間の暮らしにおける大切な価値であるとのメッセージがありました。



アマタホールディングス株式会社 資料抜粋

後半では、【医療の立場、国際人権の立場】と【企業の立場】の2つの立場からの質疑応答が行われました。

今回紹介いただいた企業の取り組みを誰が動かしているのかという質問に対し、企業からは「事業部、従業員からの動きも始まっている」との回答がありました。また、人は楽しいところに集まってくる、その楽しさは健康

にもつながるとの話がありました。働く人への取組みとして、**コロナ禍で人が集まらない中でのデジタル化や自ら考えイノベーション**が生まれているとの話がありました。

最後に、佐藤氏からは「サステナビリティ向上やサーキュラーエコノミーの実現に取り組む企業様とコラボレーションし、持続可能な未来に向けて新たな価値を創出していきたい」、伊藤順朗氏からは「人と人とのふれあいが大切で結節点は大切。ピンチをチャンスに変えながらやっていきたい。多くの人間や多くの企業が傲慢になっていた部分があったと思う、もう一度謙虚に素直に命や自然に感謝の心をもって経営に取り組んでいきたい」、伊藤事務局長からは「コロナで自分の命の尊さ、つながりの大切を認識したと思う。私たちは誰かを犠牲にして走り続け、疲れていたのではない。限りある地球、命の中で皆が落ちていく共生できることが企業活動の中心になるといい」、占部氏から「医療従事者では、弱者へのしわ寄せがきており、対応しているところもある。医療と向き合いながら新しい社会をつくりたい。社会的共通資本という考え方にふれていただきたい」とのメッセージがありました。

このコロナ禍の中で、**人がつながりあうことの大切さ**を共通基盤に、**対話・共感・共生**をこのパネルで描きだしていただきました。



閉会の挨拶は、GCNJ 有馬代表理事が登壇し、「新型コロナウイルスは自然の驚異を人類に示し、SDGsの大切さを再認識させてくれた。いまこそ、先手で自律的にSDGsに取り組み、転換点に参加すべき時である。『人間の顔をしたグローバル市場を』が今こそ真に求められている」のメッセージで本シンポジウムを締めくくりました。

今回は、初のオンライン開催にも関わらず、約200名の方にご視聴いただきました。GCNJは、今後も定期的にシンポジウム、セミナーを開催していきます。ご参加いただいた皆様、ありがとうございました